

リニアで変わるまちの姿

津市長 前葉 泰幸



東京・大阪を1時間で結ぶ超電導リニアの研究は、東海道新幹線の開業2年前の昭和37(1962)年に始まりました。半世紀の時を経た平成26(2014)年、夢の実現に向け時速500kmの磁気浮上式リニアモーターカーが東京・大阪を67分で結ぶリニア中央新幹線の建設が始まりました。先行する東京・名古屋間の開業は令和9(2027)年、大阪までの延伸開業は最短で令和19(2037)年を目指してJR東海が整備を進めています。

これまで東海道新幹線が担ってきた国土の大動脈輸送を新しいルートで二重化するリニア中央新幹線は、沿線地域のみならず日本全体に活力をもたらす国家的プロジェクトです。1時間という移動時間は、通勤、通学といった都市内の移動に近づき、三大都市の距離感はぐっと縮まります。リニア全線開業により都市間を気軽に移動できる環境が整い、関東・中部・近畿圏が一体化した人口7,000万人規模の巨大都市経済圏「スーパーメガリージョン」が出現します。

リニア沿線となる三重県には名古屋・奈良・大阪ルートの中継駅が設けられ、圏域間、地域間の交流と連携の拠点としての機能が期待されています。津市や鈴鹿市に近い亀山市内の3つのエリアが候補地となっており、令和5年度中にもJR東海から計画段階環境配慮書が公表され、概略のルートと駅位置が判明することが見込まれています。

開駅は最短で14年先ですが、リニア効果を最大

化するためにも今のうちから開通後の市民のライフスタイルの変化を予測し、まちの未来像を描いておくことが重要です。

大阪まで約20分、東京まで約60分と所要時間が大幅に短縮されるリニアを有効活用するため、三重県駅の近くに安価な、できれば無料の駐車場が設けられると利便性が大いに高まります。津なぎさまちが663台の無料駐車場を完備し、津エアポートラインで中部国際空港にアプローチする方々にご愛顧いただいているようなサービスを、リニア駅でも実現したいものです。

アクセス道路の整備も欠かせません。渋滞なくスピーディーに駅に向かうための幹線道路を建設すれば、自家用車はもとより、連絡バスの運行も容易になります。交通政策から道路計画を検討し、都市づくりにつないでいけば、鉄道と駅が新しいまちを形成することになります。

リニア駅の候補地周辺は、ほぼ亀山都市計画区域に指定されていますが、市街化区域と市街化調整区域の区分がない非線引き都市計画区域です。しかも用途地域が指定されているエリアは一部に過ぎず、ほぼ白地地域と言っても過言ではありません。津・鈴鹿・亀山三市の境界線をいったん外して広域的観点からリニア駅周辺地域に新たな都市計画を決定し、用途地域を指定すれば、無秩序な開発を抑制しつつ都市機能を備えた市街地の形成が可能になり、駅候補地の南側に位置する津市域においても住宅、オフィス、研究所などの立地促進が期待されます。

リニア三重県駅の開設は、豊里、芸濃、河芸など津市北部のまちの姿が大きく変わる可能性をもたらし、美里、安濃、白山など津市西部にお住まいの方の生活利便性も向上します。市民の快適なくらしと地域経済の発展を見据え、先手を打って、望ましいまちの姿を描いてまいります。

ケーブルテレビ123chと津市ホームページでは、前葉市長がこのテーマについて語ります



津市長コラム

検索



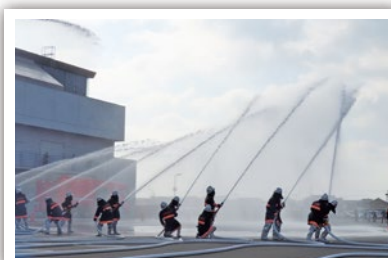
市長の活動日記から

✓ 津市民生委員・児童委員委嘱辞令
伝達式…12月1日

3年に1度の一斉改選により、厚生労働大臣から委嘱を受けた574人の民生委員・児童委員、主任児童委員の皆さんに辞令を交付。地域の身近な相談役としてご活動いただきます。

✓ 津市消防出初式(メッセウイング・みえ)…1月8日

消防団員約300人が参加し、規模を縮小しつつも、従前に近い形で開催。令和2年に実施して以来となる、木遣り披露や、10方面団の団員による一斉放水が実施されました。

✓ 上富良野町青少年交流事業団来訪
…1月12日

友好都市提携25周年を迎えた北海道上富良野町から、34人の児童の皆さんがおみえになりました。滞在期間中、津市の歴史や文化を学習され、安東小学校の児童と交流を図られました。

「市長活動日記」は津市ホームページでご覧になれます

津市長活動日記

検索